

2022 年度(第 15 回)コンクリート構造診断士試験における 出題の誤りに関するお詫びとお知らせ

令和 4 年 7 月 11 日
公益社団法人プレストレストコンクリート工学会

2022 年 7 月 3 日実施の第 15 回コンクリート構造診断士試験の【問題 33】において、下記のとおり出題の誤りがございました。受験者の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、再発防止に向け万全を期してまいります。

記

道路橋の耐震基準に関する次の記述のうち、**適切なものはどれか。**

- (1) 1926 年(大正 15 年)制定の「道路構造に関する細則案」では、標準の水平震度として 0.2 を設計に考慮するように定められた。
- (2) 1980 年(昭和 55 年)制定の「道路橋示方書 V 耐震設計編」では、鉄筋コンクリート(RC)橋脚の脆性的な破壊を防ぐ目的で橋脚の靱性確保のために地震時変形性能の照査が加えられた。
- (3) 1990 年(平成 2 年)制定の「道路橋示方書 V 耐震設計編」では、従来の震度法と修正震度法とを新たに震度法としてまとめ直すとともに、RC 橋脚の変形性能照査として保有水平耐力の照査規定が設けられた。
- (4) 1996 年(平成 8 年)制定の「道路橋示方書 V 耐震設計編」では、震度法に加えて発生確率は低いものの大きな強度を持つ地震動も考慮することとなり、これに保有水平耐力法を導入することで、二段階の耐震設計が採り入れられた。

に対し、(2)(3)(4)が適切な選択肢となり、複数の選択肢がある問題となっております。

この問題は無効とし、すべての受験者の解答を正解として採点いたします。